

## 神宮外苑地区のまちづくり 最終更新日：令和2年11月19日 東京都都市整備委員会

### ●概要

本地区は、大正期に整備された神宮外苑の都市構造を基盤として、風格のある都市景観と苑内の樹林による豊かな自然環境を有しており、都市計画明治公園や風致地区が定められています。また、昭和39（1964）年の東京オリンピックの主会場となった国立霞ヶ丘競技場をはじめとした日本を代表するスポーツ施設が多く集積し、国民や競技者がスポーツに親しむ一大拠点が形成されてきた地区です。

本地区では、国立霞ヶ丘競技場の建替えを契機に、国内外から多くの人が訪れるスポーツ拠点を創造していきます。また、神宮外苑いちょう並木から明治神宮聖徳記念絵画館を正面に臨む首都東京の象徴となる景観を保全するとともに、神宮外苑地区一帯において、緑豊かな風格ある景観の創出、バリアフリー化された歩行者空間の整備など、成熟した都市・東京の新しい魅力となるまちづくりを推進していきます。

東京2020大会までに、新国立競技場等への多くの観客を安全・快適に移動させるための歩行者ネットワークやたまり空間の整備を図るとともに、スポーツクラスターを実現する取組の一環として、日本スポーツ協会の本部などが入居する[岸記念体育会館の移転](#)を含め、スポーツ関連団体の本部機能の集約を進めてきました（[a区域のまちづくり](#)）。

また、大会後には、緑豊かな風格ある都市景観を保全しつつ、スポーツクラスターと魅力ある複合市街地を実現することを目指し、まちづくりに取り組んでいきます（[b区域のまちづくり](#)）。

a区域のまちづくりについては [こちら](#) をご覧ください。

b区域のまちづくりについては [こちら](#) をご覧ください。

東京2020大会後の神宮外苑地区のまちづくり検討会については [こちら](#) をご覧ください。

整備前の神宮外苑地区（平成25年時点）





▲新国立競技場イメージ

大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所 JV 作成／JSC 提供

注) パース等は完成予想イメージであり、実際のものとは異なる場合があります。植栽は完成後、約 10 年の姿を想定しております。



▲神宮外苑いちょう並木より明治神宮聖徳記念絵画館を臨む（明治神宮外苑 HP より）

## ●主な経緯

- 平成 22 年 12 月  
(2010) **「10 年後の東京」への実行プログラム 2011 策定**  
将来への指針として、霞ヶ丘、武蔵野の森、駒沢など、スポーツ拠点が整備され、霞ヶ丘競技場一帯は、神宮スポーツクラスターとして、特区制度の活用などにより整備された都市像を提示。
- 平成 23 年 12 月  
(2011) **「2020 年の東京」計画策定（四大スポーツクラスターの整備）**  
大規模スポーツ施設を中心とした様々な施設の集積（スポーツクラスター）により、集客力の高い、にぎわい溢れるエリアを生み出し、スポーツ振興とともに、活力あるまちを再生することとし、四大スポーツクラスターの一つとして、神宮地区を位置づけました。
- 平成 25 年 6 月  
(2013) **[神宮外苑地区地区計画の決定](#)（PDF 3.8MB）・[都市計画公園明治公園の変更](#)（PDF 1MB）**  
神宮外苑地区一帯において、緑豊かな風格ある景観の創出、バリアフリー化された歩行者空間の整備など、成熟した都市・東京の新しい魅力となるまちづくりを推進することとしました。  
また、広場や歩行者動線・滞留空間と公園とが一体となった開放感のある空間形成など、公園機能の向上を図るため、立体都市計画公園制度を活用して、都市計画公園区域の再編を行いました。  
地区計画の位置：港区北青山一丁目、新宿区霞ヶ丘町、渋谷区千駄ヶ谷一丁目ほか

地区計画の面積：約 64.3ha

平成 28 年 10 月 (2016) [神宮外苑地区地区計画の変更](#) (PDF 5.1MB)・[都市計画公園明治公園の変更](#) (PDF 1.4MB)

スポーツクラスター形成に向け、新たな地区整備計画の策定等に伴う地区計画の変更を行いました。

地区施設(区画道路、歩行者通路、広場、緑道等)の追加・変更といった地区計画の変更にあわせ、都市計画公園の区域も変更しました。

平成 28 年 12 月 (2016) [新国立競技場](#)  着工

平成 29 年 3 月 (2017) [神宮外苑地区地区計画の変更](#)

既存樹木をいかして、緑豊かなオープンスペース等の整備を図るとともに、にぎわいを創出する宿泊・交流施設等の諸機能の導入を図るため、新たな地区整備計画の策定等に伴う地区計画の変更を行いました。

平成 29 年 7 月 (2017) 日本青年館・日本スポーツ振興センタービル竣工  
[日本体育協会\(現「日本スポーツ協会」\)新会館](#)着工

平成 29 年 11 月 (2017) [都市計画公園明治公園の変更](#)  
新国立競技場周辺における、快適なオープンスペースや歩行者ネットワークの充実を図るため、都市計画公園の立体的な範囲の一部を変更しました。

平成 31 年 4 月 (2019) JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE (日本スポーツ協会新会館) 竣工

令和元年 11 月 (2019) 三井ガーデンホテル神宮外苑の杜プレミア開業

令和元年 11 月 (2019) [新国立競技場](#)  竣工

(参考) [神宮外苑地区地区計画\(計画書・計画図\)](#) (PDF 11,882KB)

お問い合わせ先

都市づくり政策部 土地利用計画課

電話 03-5388-3249

[https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/bosai/toshi\\_saisei/saisei07.htm](https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/bosai/toshi_saisei/saisei07.htm)

## 樹木 1000 本が伐採危機…神宮外苑、東京五輪で規制緩和「開発優先では」 日本エコモスが都へ見直し提言 2022年2月8日 06時00分

明治神宮外苑地区（東京）の再開発に伴い、約1000本の樹木が伐採される可能性があることが分かった。再開発計画は9日、東京都都市計画審議会に諮られ、承認されると事業は本格化する。文化遺産保護の提言などを行う「日本エコモス国内委員会」は7日、東京都へ見直しを提言した。（森本智之）



日本エコモスのメンバーで、都市計画が専門の石川幹子・中央大研究開発機構教授が、昨年12月に公表された都市計画案などを基に、現地を歩いて1本ずつ確認する<sup>まいぼく</sup>毎木調査で突き止めた。東京都も取材に、伐採の計画を認めた。

再開発は三井不動産、明治神宮、日本スポーツ振興センター、伊藤忠商事が担う。神宮球場と秩父宮ラグビー場の建て替えに加えて、商業施設やオフィスの入る高さが185メートルと190メートルの2つの複合ビルなど複数の高層建築が計画されている。

神宮外苑は国民からの寄付により1926（大正15）年に完成した日本最初期の近代的な都市公園とされる。献金のほか、ボランティアが造成工事に当たり、約3000本の樹木も献木された。石川教授によると、今回は再開発エリアにある約1900本の半数以上の1000本が伐採され、その中には造営当時に植林されたような樹齢100年級のクスノキやケヤキなどの大木も多く含まれる。

完成時に周辺は自然的景観の保全を義務付けられた風致地区に日本で初めて指定され、高さ15メートルを超える建物を建てられないなど開発が規制されてきた。だが、東京五輪の主会場として国立競技場を建て替えるため、都は高さ制限を80メートルにするなど規制緩和を行い、開発が本格化した。

今回の開発では、公園としての面積が3・4ヘクタール削除され、一部の高層ビルはその跡地に建つ。公園の面積を削る分、代替地を新たに公園に指定するのが普通だが、今回は補填しない。石川教授は「開発優先ではないか」と批判する。

都が再開発の詳細を公表したのは昨年12月14日で縦覧期間は2週間だった。情報が社会に十分共有されていない可能性があり、石川教授は「9日に結論を出すのではなく、都民の意見を聞くなど慎重に対応してほしい」と求めている。

提言を受けた東京都土地利用計画課の谷内加寿子課長は「1000本は切ってしまうと決まったわけではなく木の状態など調査した上で、残せるものは移植も含めて残せるように事業者に話していきたい」と答えた。

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/158883>

**神宮外苑の樹木 892 本伐採して高層建築、賛成多数で承認 批判意見も「議論は十分尽くされた」 都審議会 2022 年 2 月 10 日 06 時 00 分**



都市再開発計画が持ち上がっている明治神宮外苑＝2019年6月本社へリ「あさづる」から神宮球場や秩父宮ラグビー場を建て替える明治神宮外苑地区の再開発に向けた計画案は9日、東京都都市計画審議会で賛成多数で承認された。都側は、再開発に伴う樹木の伐採は892本に上るとの見通しを説明。委員の一部からは継続審議を求める声も出たが採決となった。(森本智之)

**【関連記事】[樹木 1000 本が伐採危機…神宮外苑、東京五輪で規制緩和「開発優先では」 日本イコモスが都へ見直し提言](#)**

伐採については、石川幹子・中央大研究開発機構教授が1000本に上ると試算。都の担当者は取材に「できる限り保存か移植するよう事業者と協議する」としていた。関係者によると、移植を含めると1056本が再開発の影響を受ける可能性がある。

この日の審議会でも、委員から「1000本近い伐採はこれまで表に出ておらず丁寧に説明するべきだ」「地球温暖化への対応では、緑を増やすのが流れで、逆行しているように見える」などと批判的な指摘が出た。

樹木伐採について、都側は「新たに木を植えることで緑は増える」などと理解を求めた。だが、再開発の事業者が昨年夏にまとめた環境影響評価書案によると、新たに木を植えるなどして緑の面積は増えるものの、体積は1割弱減少する。

審議では委員の都議が、樹木伐採に関連する模型を持ち込むことを求めたが、都は「模型の説明では議事録を読んだ都民が状況を把握できない」と拒んだ。この委員は「議論が尽くされていない」と採決の延期を求めたが、原田保夫会長は「十分尽くされた」と応じず採決を行った。審議は2時間半ほどで終わった。

石川氏は本紙の取材に「伐採樹木には100年近く守られてきた大木も含まれ、新たに植

えても代わりにはならない」と主張。今後は「都に計画の情報開示を求め、改善するよう交渉したい」と述べた。

神宮外苑は日本初の風致地区として景観が守られてきたが、国立競技場の建て替え以降、開発が本格化した。今回の計画で建築要件はさらに緩和され、高層建築が立ち並ぶ。歴史的な景観が変わる節目となる。

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/159304>

## 東京五輪の規制緩和で歴史的景観守れず…国立競技場のザハ案より高いビル続々 神宮外苑再開発計画 2022年2月10日 06時00分

明治神宮外苑地区では東京五輪の主会場となった国立競技場の建て替えに伴い、歴史的な景観の保持が問題となった。今回の再開発計画により、その国立の高さ49メートルを超える建築物が立ち並ぶことになる。

国立の建て替えは、2012年に採用されたザハ・ハディド氏デザインの当初案が高さ70メートルの巨大サイズとなり歴史的景観を侵害するなど問題化。都は条例などで景観を守る立場のはずだが、五輪開催都市として建て替えのための規制緩和に前向きな幹部の姿勢も目立ち、批判された。



総事業費の高騰などで政府が計画の白紙撤回を決めた後、現在のデザインが採用された。建築家の隈研吾氏は歴史的な景観に溶け込ませるため「高さを抑えることに最もこだわった」と当時、話していた。

だが、国立建て替えの際の建築制限の緩和により、民間ホテルや、日本オリンピック委員会 (JOC) が入居するビルなどが建設された。さらに今後は、オフィスや商業施設の入るビル2棟 (高さ190メートル、185メートル)、宿泊・スポーツ関連施設の入るビル (80メートル) などが地区の周縁部に建設される。国立に隣接するラグビー場も55メートル、球場はホテルが併設され60メートルに達し、いずれも国立の高さを超える。

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/159307>

「神宮外苑の緑と空と」 facebook

<https://www.facebook.com/groups/661302255054761>